



8月19日(火) ～内緒の話、教えてあげる～

「勉強したふりしてゲームしているんだよ。だって勉強ばかりが人生じゃないって、じいちゃんがいっていたもん。」

「いつもママのごはんが一番おいしいって言っているけど、本当はね、ばあちゃんの方がおいしいんだよね。」

内緒の話でも、善意から出た言葉です。とてもほのぼのとさせられます。こんなことを言う子は、心の優しさと豊かさのある子です。叱らないことです。

親は自分が子どものために考えたことは正しいと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつけるのではなく、「あなたはと思う?」とまず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、一緒に考え一緒に学んでいく姿勢が大切です。

古典芸能の狂言では、3歳から稽古が始まり、大人が一つ一つ見本を見せて、型を覚えさせると野村萬斎氏が言っていました。大人の真剣さは、3歳児に伝わり、芸能として伝承され何百年も続いています。そして、観る者に感動を与えるのです。

子どもが自分で考え、勇気をもって行動し、達成感を味わう、または失敗から学び強くなるチャンス子どもから奪わないようにすることです。子どもは、子どもなりに一生懸命考えているのです。

～～ご理解ください～～ タブレット(iPad)不調で、出席確認、園内連絡等、個人のスマホで確認することが多くなっています。決して私的な用件で使っているわけではありませんのでご理解ください。

クマ出没注意！

各地でクマが出没、被害が出ています。訓子府のレクリエーション公園近くでも熊の出没が確認されています。遠足が近づいていますので、先生方は、熊だけでなく、スズメバチなど、危険なことではないか、目的地周辺の下見をします。

・・・園のとうきび・・・

今年は猛暑でこども園の畑のトウキビは不作です。昨日、カラスにつつかれた跡があったので、小さかったのですが収穫しました。園児全員に当たるだけの本数はとれませんでした。3歳以上がひとかじりずつでしたが、食べることができました。まあまあ美味しかったです。

*前期保護者アンケートを配信しました。ご協力をお願いします。



8月20日(水)

全国学力・学習状況調査でも明らかに 今の子は「自己肯定感」が低い

自己肯定感の低い子は、自分に自信が持てず、物事をネガティブに捉えがちで、他人と比較して落ち込んだり、失敗を過度に恐れたりします。「どうせ、オレなんか、勉強したところで…」と意欲や向上心の低い子が増えていて、学力の低い原因になっています。

子どもの自己肯定感というのは、誰かのほんの一言やちょっとしたきっかけによって高められるものです。特に子どもの場合は、周囲からの言葉によって自分がどういう存在であるのかを確認していく度合いが大きいのです。だからこそ、家庭での親と子どもとの会話、親から子どもへの言葉がけが大切なのです。

さまざまな経験があればあるほど、さまざまな思考を持っていればいるほど、自分の中に多くの引き出しを持つことができます。人は何かにぶつかったとき、それまで培ってきたものを頼りに、どう対処するかを判断します。つまり、引き出しが多ければ多いほど、自分が出す判断に自信が持てるのです。体験したことの数だけ、子どもの中に引き出しが増えていきます。これは幼児教育の「遊び」は「学び」であることに通じる考えです。

日曜日夜8時「ポツンと一軒家」(朝日テレビ) その住人は、ほとんどが年寄りです。8月17日の放送では、「天然ウナギや蜂蜜、狩猟の仕方は、どこで、だれに教わったのか?」と質問すると「そんなもん、子どもの頃から親がやっているのを見よう見まねで覚えた。昔の人はみんなそうだよ。」と言っていました。

園長先生の通信の内容は、私見ですか?と聞かれました。

教育や保育を語れるほど、偉い人間ではありません。保育や家庭教育に関するもの(道教委からの通達や資料、教育雑誌の情報、教育関係者の講演や著書など)から、一冊の本や数ページの資料を限られた紙面にまとめて配信しています。全文を掲載していないので、かえって分かりづらい、誤解を招くこともあるのではないかと考えています。決して、考えを押し付けたり、偉そうに頭ごなしに説教がましくいつているつもりはありません。保護者の皆さんが子育てをする参考になればと思っています。

今年の夏は、高校野球で盛り上がりました。訓子府出身の球児が甲子園で登板したからです。夢と希望・感動を与えてくれました。

長かった?夏休み終わる 「早く始まればいい!」「もう終わり!」どちらでしょうか?

今年から夏休みが長くなって喜んだのは子どもだけで、親は、「早く始まってほしい。」と思っていたことでしょう。休みモードから、通常モードにはやく切り替えてください。



8月21日(木)

「学力低下」は「地域発展の赤信号」

管内の高校を卒業して、その地域(管内)に残る割合は、2~3割となっています。全道では、高校卒業者の9割が道内に残っています。本道の子どもたちの地域残留率は非常に高い状況です。地域に残る子どもたちが、自分の足で立っていけるのかどうか、学力低下は地域経済・地域社会の存続・衰退に直結する問題です。

「全国平均点以上を目指す」という目標は結果に過ぎません。各学校では、正答率のバラツキを分析し、対策を講じていますが、残念ながら結果が出ていません。大事なことは、一人一人の子どもに、自立して生きていくために最低限必要な基礎学力をきちんと身につけさせることです。

一人一人に最低限の学力を身につけさせて社会に送り出す「基礎学力保障」は、学校の責任です。しかし、学校を取り巻く客観的情勢に目をやれば、経済的に困難な家庭が増加傾向にあります。また、保護者からのニーズも多様化しています。児童虐待、過疎化に伴う地域の教育力の低下もあります。しかし、目の前の子どもたちに視点を置いて考えれば、そのことを理由に現実から目をそらしたり、言い訳をしたりすることは許されるものではありません。学力向上は、「教育の力で人を育て、よりよい社会をつくっていかうとするのか」という問題なのです。

昨日の教育委員会会議でも話題になりました。 ~道教育委員会 教育長談話から~

基礎学力とは、四則計算や漢字の書き取りではありません。「思考力・判断力・表現力」です。一番大事なのは「関心・意欲・態度」です。これは、こども園で大事にしていることです。学力の基礎は、幼児教育にあります。

レクリエーション公園、クマ目撃情報により、閉鎖されています。

(日本語、中国語、韓国語、英語で立ち入れ禁止と書かれた看板が設置されています。)

そのため、3歳児の遠足の目的地を変更しました。

保護者アンケート 2日間で50%の回答をいただきました。引き続きよろしくお願いします。

夏休み最終日 小学生が玄関で、「あ~あ、終わりだ~。」と残念がる子どもにお母さんは、「あ~、よかった。」と言っていました。お母さん、お疲れ様でした。小学生の皆さんは、早く学校モードに戻して、勉強がんばってください。

8月22日(金)

夏休み終了 今年暑い日が続きました。



夏休みが終わり、まだ暑い日が続きます。今年はたくさん水遊び、泥遊びをしました。水遊びをする子どもたちのにぎやかな声が夏の暑さを少し和らげてくれます。大きなタライに水をためて、置いてだけで、にぎやかに遊び、そばにいる友だちや先生とのやり取りを楽しみます。水を汲んだりこぼしたり、水を誰かにかけたり、かけられたりして、全身で、また心で水を体感します。

手に水をすくっても手の中の水が無くなるのが不思議で、繰り返してやってみたり、シャワーの水は冷たいのに、ためた水は温かい、と感じたりして、水遊びは、さまざまな要素をもった宝物です。子どもたちを見ているとそんなたくさんのことが生まれていることに気がきます。子どもの感性や創造力は私たちの知識を上回ります。これこそが保育のだいご味です。

夏休みは何のためにあるの？

- 1 **心身のリフレッシュ**: 暑い時期の学習から解放され心身ともに休養する。
- 2 **自主性・自立性の育成**: 自由な時間が増えるため自分で計画を立て、行動する力が養われる。
- 3 **社会性の育成**: 家庭の一員としての役割を果たす、地域の行事の参加することで社会とのかかわりを深める。
- 4 **新たな体験・経験**: 旅行、キャンプ、部活など、普段学校生活では得られない貴重な体験をすることができる。＊終わってみてどうでしょうか？ 1の心身のリフレッシュは、まちがいなくできたことでしょう。



とうきび ちょっと変？

昨年まで銀河農園で栽培活動をしていましたが、ちょっと遠くて管理や観察がしづらいので、今年は、園庭の花壇で栽培することにしました。トマトととうきびは食べました。まだ、ニンジンと枝豆が残っています。

「園のとうきび、小さいね。」 「半分しか実がないね。」

「毛が茶色くなってないね。」 「食べたら、まあまあおいしいね。」
こんな体験が、1年生生活科の「あさがお」の栽培につながります。

学校が始まって、お父さんが車で1年生と「あさがお」を乗せて学校に向かっていました。

8月25日(月)

ローマ字のつづり方がかわります

これまでの訓令式でしたが、英語により近いヘボン式に変更されます。外国人観光客が増えて、ローマ字表記になっても「I don't know」と言われています。すでに多くの場面でヘボン式が使われていますが、訓令式と混在していて、より分かりにくくなっていました。

《例》「シ」⇒si ⇒shi 「ツ」⇒tu ⇒tsu 「ふ」⇒fu⇒fu

「シャ」⇒sya ⇒sha Yoshimitsu Makino パスポートはこれです。

遠藤周作が友人の北杜夫の入院見舞いに「メロン」を持って行くと周囲に話したら、北杜夫が「メロンではなく栗だった。」と雑誌に書くと、透かさず遠藤周作は「自分は、英語の発音には厳格である。メロンはウェロンと発音する。マロンと聞き違いしたのではないか？」と雑誌に投稿したという話があります。日本語と英語の発音と表記には、相当違いがあるということです。ちなみに大谷翔平選手のユニホーム表記は「OHTANI」です。パソコンのキーボードは、どちらにも対応します。

ちなみに「こども園」は Children's garden 「幼稚園」は Kindergarten

くだものを見せて「これは何ですか？」と子どもに聞くと「フルーツ」と答えます。みかんを指さすと「オレンジ」 いちごは「ストロベリー」 ぶどうは「グレープ」と答えます。野菜は、さすがにベジタブルとは言いませんでしたが、とうきびは「コーン」と答えました。子どもの中では日本

語も、英語もごちゃまぜです。

「園長先生、きゅうりは何て言うか知ってる?」、「Kyukannba」かな?

「発音が悪いね〜!」 きゅうりは「Cucumber」だよ。

これからは、バイリンガル、トライリンガル、2・3ヶ国語を喋れるようになる時代になるかもしれません。明日は遠足です。お弁当(Lunch box)よろしくお願いします。

8月26日(火)

夏休み明け、子どもの自殺が増える?

長期休業明けの子どもたちの自殺が後を絶たないのは、「学校は苦しくても行かなければならない」という固定観念に縛られているからです。

フリースクールなど学校以外の学びの重要性を認めた「教育機会確保法」が成立しましたが、その中身が十分理解されているとは言い難いのが現状です。基本方針で「登校のみを目標にするのではない」と示され、休養の必要性も明記されています。「不登校だと、大人になったときに社会の中でやっていけるのか?」と心配する声もありますが、フリースクールの多くの卒業生は進学し、自分の好きなことに取り組んでいます。保護者は、その子にしかない価値を認めてあげ、生きる楽しさを子どもが感じられるように寄り添ってほしい。

(フリースクールを運営するNPO法人「東京シュール」 理事長 奥野 圭子)



指導要録や出席簿には、出席停止などで欠席した場合の日数を引いた「出席しなければならない日数」を記載しなければなりません。欠席は、病欠か事故欠(病気以外)しかなく、不登校は、1年間に30日以上欠席した児童生徒を指します。しかし、「今日は不登校で休みます。」という保護者からの連絡はまず来ません。そして、どんなに欠席が多くても、進級も、卒業もします。不登校の子にも「小学校の課程を修了したことを証する」という卒業証書も渡さ

れます。「出席しなければならない日数、は意味があるのですか?」と聞いてきた先生がいました。正に「登校のみを目標」にするものです。考え直す必要があります。うちの子は、まだ小さいから関係ないと思うでしょうが、学校教育の学力も生徒指導も幼児教育が大きく関わっています。



8月27日(水)

全国学力テストの結果から

親の所得が高いと子どもの成績は良い。しかし、お金はかけなくても
親の心がけ次第で学力向上につながる。

経済格差が招く学力格差を緩和する鍵は、親の心がけ次第

一般的に親の所得が高いほど学力が高いと言われていますが、学力が高い子どもの親が心がけていることについて調べると、「小さい頃から絵本の読み聞かせをした。」「博物館や美術館に連れて行く。」「ニュースや新聞記事について子どもと話す。」といった回答が多くありました。これは親の所得に関係なく、一定の効果が見られたといえます。調査では、学校の取り組みについても調べています。家庭環境にかかわらず、児童にあいさつを徹底したり、教員研修を積極的に行ったりしている学校は、学力向上に一定の効果が見られました。

夏休み、家族で関西万博に出かけた家族がありました。子どもにとっては貴重な体験になったはずですが、しかし、経済的に苦しい家庭では、夏休みに家族旅行に出かける余裕などありません。しかし、テレビなどで、得た情報を親子では話し合うとか、山の水族館や北網園文化センターに行くとか、お金をかけなくても心がけ次第で、子どもの興味関心、やる気を喚起させることはできます。

学力向上には、継続的な反復練習や、理解を深めるための学習意欲を高める環境の整備が効果的です。幼児期から、やる気と集中力を高めることです。

前期保護者アンケートのお礼 貴重なご意見をたくさんいただきました。これからの園運営に活かしてまいります。お陰様で、3年、4年前より全体的に良い結果になりました。ありがとうございました。結果を学校評議員と育友会三役に報告して、さらにご意見を伺います。それから公表します。